

## 自分らしく輝く

# Free Style

本田陽子さん（建設会社勤務・大工・大草町在住）

「職人」というと、皆さん「男性」をイメージされますよね？今回は、その男性っぽい職人の世界で、自分らしく輝いている本田さんにお話を伺いました。



**Q** なぜ大工になろうと思ったのですか？

**A** 小さなころからの夢でした。だけど「女ではダメだ」と周りから言われ、いったんは設計の仕事に就きました。その後、平成12年に、建築家グレン・マーカットの作品を見るため、単身でオーストラリアを訪問したとき、さまざまな国の人たちと交流する中で、女性だからといって夢をあきらめることはないと感じました。帰国後、大工としての勤め先を探したものの、なかなか見つかりませんでした。縁あって、現在勤務する建設会社に、平成21年からお世話になることができました。

**Q** 家族や友人の反応はどうでしたか？

**A** 大反対でした。なので、大工の見習いをしている期間は、家族にはずっと言えませんでした。国家試験一級技能士（建築大工）に合格したとき、やっと報告することができました。友人からも、「どうして大工なの？」と心配されたり、「厳しいから辞めたほうが良い」と言われたりしました。でも、今では

家族も友人も応援してくれています。

**Q** 職場の同僚の反応はいかがですか？

**A** 皆さん、とても気を使ってくれて、仕事もやさしく教えてくれます。怒られることもありますけど（笑）。とても恵まれています。

**Q** 将来の夢は？

**A** ずっと大工を続けていきたいと思っています。もし、体力面で続けることができなくなっても、大工のことについて伝える仕事をしていきたいです。

**Q** 大工を目指す人たちにメッセージをどうぞ。

**A** 性別も年齢も関係ないと思います。とても厳しい世界なので辛いこともありますが、皆さんの生活の基礎となる家を造ることができるのは、やりがいがあり、面白い仕事だと自分は思います。簡単には辞めず、一人前になるまで頑張ってもらいたいと思います。



▲大羽さん（左端）と同僚の皆さん

### ◆応援メッセージ 大羽通之さん（会社専務・神戸町）

職人を希望する男性も珍しい昨今ですが、大工という仕事以外は考えられないという本田さんの、仕事に対する熱意を感じ、採用させていただきました。仕事の傍ら、夜間訓練校に3年間通い、眠る間も金銭的な余裕もない時期があったと聞いています。また、女性だからと甘えるのも、気を使われるのも嫌で、丸坊主にしていたときもあったそうです。ただ、これまでやってこられたのは仲間がいたからで、一人ではここには居なかったと語っていました。向上心が高く仕事熱心なので、一人で軒任せられるような、一人前の大工職人になってくれることを期待しています。